

## 【当日の主な意見・感想】

### 1. 理学研究科博士後期課程について

- ・学生にとって初めて接する博士は大学の教授であることが多いと思う。学生から見て大学の先生が魅力的に見えると、進学率も上がると思うので、先生方にはさらに輝いてほしい。
- ・今の世代は分かりやすい話を好む傾向なので、カーボンニュートラルやCO2の吸収など、分かりやすいテーマと理学的なところを結び付ければ、さらに博士課程への進学希望者も増えるのではないか。
- ・理学部は分野を横断した領域なので、分野横断型の社会課題解決プログラムを作れば、博士課程がより魅力的になると思う。
- ・弊社には理学研究科出身者がたくさんいるが、多くの方がよい意味で枠がない印象。実学系の人は即戦力だが、視野が固定されていて、理学研究科出身の人は視点を自由に考えているので、それが魅力だと思う。こういう理学研究科の良さの中で、学生の個性を自由に発揮できる場を大切にしてほしい。

### 2. 企業から見た今後必要な博士人材について

- ・企業では、柔軟性、自立性、学会での人脈、柔軟性、産官学でのコラボ能力、多様性、人をまとめる力など、人間力が必要である。
- ・ある理系特化型のスカウトサービスの会社からは、仮説検証サイクルを回した経験と数と質、幅広く水準が高い想定力、俯瞰力、情報を整理し分かりやすく伝えるレポート力、レポートや論文で身につけた高い言語力、新しいものに対する学び方、学習スピード、言語数式プログラミングのスムーズな変換などができる人材が企業から高く評価されるという話を聞いたことがある。
- ・企業は、プロジェクトマネジメントができるかどうか、それからチームをまとめるファシリテーションの力があるかどうか、リーダーシップがあるかどうか、当事者意識が高いかどうかを見ている。

### 3. 企業からみた学位の必要性について

- ・弊社では修士卒の人と面接をする際、入社してからでも学位は取れると言っており、実際に入社してから学位を取る人は多い。博士の学位を持っていると、海外に行った際に区別されることが多く、メリットが多い。
- ・企業がグローバルに展開していくうえで、博士号は非常に大きなアドバンテージになる。
- ・博士号を取得すると研究分野における人間関係がかなり広がり、メリットが大きい。

### 4. 産業界から理学研究に期待すること

- ・企業における基礎研究はどんどん減少しており、アカデミアに依存する傾向は止まらない。基礎研究は応用研究、開発、事業化に繋がるので、事業化の横に基礎研究があるというイメージで、理学における基礎研究を徹底してほしい。
- ・理学研究は産業界を意識しすぎず、自然科学の未知を解明してほしい。
- ・理学研究の持続的な発展を考えると、分野を横断した新たな科学領域の開拓も必要だと考える。物質・光・生命に関する理解を根本的に変えるような未踏の科学を生み出してほしい。
- ・「理学」に期待することは真理探究に根差す「本質とはなにか」に立った全く別次元へのサイエンスの展開であり、研究現場を経験した人材の育成にも期待している。

### 5. 理学懇話会全体に対するご意見

- ・活発な意見交換が行われ、大変活力を感じた。
- ・半日かけて意見交換をするのは大変意義深い。
- ・意見交換を通じて、みなさんの課題意識や価値観に触れることができ、企業にも参考となる多様な気付きがあり、有意義な時間だった。